

ういケアみなと 映画上映会

字幕付

ケアを紡いで



27歳でがんを患った女性の日々を描いた物語です。

AYA世代とは、おおむね15～39歳の世代をさします。この期間は、進学や就職、結婚や妊娠出産、育児といった人生のなかでも様々なライフイベントが集中する時期です。日本では年間約2万人のAYA世代の人ががんを発症すると推定されています。自分や大切な人ががんを患ったときどう向き合うのか、この映画を通して一緒に考えませんか。



(c) 大宮映像製作所

2024年
2月17日(土)

場 所：ういケアみなと 講習室
対 象：どなたでも
定 員：各30人(申込順)
費 用：無料
申込方法：電話またはFAX
詳細は裏面参照

午前の部 11:00～13:00

午後の部 14:00～16:00

どちらの部も大宮浩一監督が登壇し、映画に込められた思いや、撮影時のエピソードを伺うトークショー(15分程度)を行います。



ういケアみなと

港区立がん在宅緩和ケア支援センター



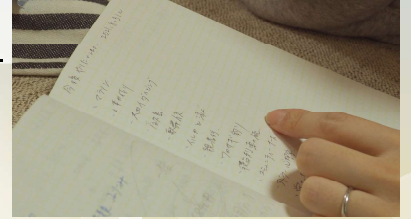
ういケアみなと
Instagram



ういケアみなと
ホームページ



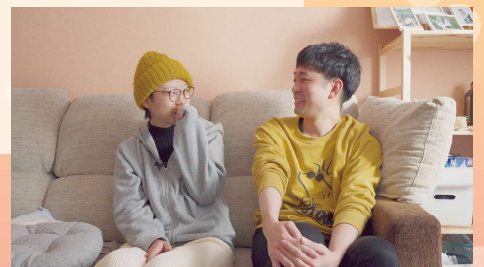
ありのままを記録してもらえれば—



そう語る看護師の鈴木ゆずなさん。
27歳でステージ4の舌がんの診断を受けた彼女は、
仕事を休み、治療を続けています。
やりたいことをリストに書き出して実行していきます。

本作は、ゆずなさんが夫や友人たち、そしてあらたに出会った
NPO法人「地域で共に生きるナノ」の仲間たちと
時を重ね、命と向き合い、
日々の暮らしを紡いでいく姿を描くドキュメンタリー映画です。

ゆずなさんが病気に向き合いながら残した悩みや葛藤、
数々のメッセージを皆様に受け取って頂き、
一緒にケアを紡いで頂きたいと思います。



監督 大宮 浩一 * おおみや こういち

- 1958年生まれ。
- 2010年 介護のリアルを描いた『たたいま それぞれの居場所』を企画・製作・監督。平成22年度文化庁映画賞（文化庁奨励映画大賞）を受賞。同年、『9月11日』を企画・製作・監督。山形国際ドキュメンタリー映画祭で上映される。
- 2011年 東日本大震災で出逢った人々の声を記録した『無常素描』を企画・製作・監督。山形国際ドキュメンタリー映画祭他、ニューヨーク、パリ、ロンドンなど国内外で上映される。
- 2012年 介護スタッフたちの葛藤や家族の想いを見つめた『季節、めぐり それぞれの居場所』を企画・製作・監督。第36回山形ふみ子映画賞（山形ふみ子福祉賞）を受賞。
- 2013年 『長嶺やす子 裸足のフラメンコ』を企画・製作・監督。
- 2014年 ベトナム戦争従軍カメラマンの石川文洋を描いた『石川文洋を放する』を企画・製作・監督。SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）による〈シグニス平和賞〉を受賞。
- 2017年 知られざる夜間保育園の取り組みを描いた『夜間もやってくる保育園』を製作・監督。
- 2019年 山形県唯一の有人離島の暮らしを描いた『島にて』を企画・製作・監督。

(c) 大宮映像製作所

【アクセス】



- 東京メトロ 南北線
 - 都営地下鉄 三田線
「白金台」駅下車 2番出口 徒歩1分
 - 都営バス（品93）
「白金台駅前」下車 徒歩1分
- * 駐車場はございません。
公共交通機関をご利用ください。

【イベント申込み方法】

開催日前日までに電話またはFAXでお申込みください。
FAXの場合、指定の申込用紙はございません。
参加されるイベント名・開催日時・氏名・電話番号・人数を記載のうえ送信してください。

電話 03-6450-3421 | FAX 03-6450-3583

【感染予防対策のお願い】

当施設は、免疫力が低下した方も利用されます。
施設を利用される際は、引き続きマスクの着用と
手指消毒のご協力をお願いします。